

学びのデザインシート（授業前）

主体的・対話的で深い学びを実現する授業構想【芸術／音楽Ⅰ】

1. 対象（実態を想定する学校・生徒の実態の概要）

高校入学後初めてリコーダーに触れる。多くの生徒は中学校でアルトリコーダーでの学習を経験しているが、一部には小学校以降リコーダーに触れていない生徒もいる。アルトリコーダー、ソプラノリコーダーを持参する者が混在している。器楽領域の学習として、1学期に音符の長さや高さについて学習し、大半の生徒は楽譜に書かれていることを理解できている。舞曲に関する知識は有していない。

2. 題材 「奏法の特徴を生かした演奏をしよう～リコーダーの演奏～」(全5時間)

3. 題材で育成すべき資質・能力の三つの柱につながる題材の評価規準

①知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性などについて理解を深めている。 ・創意工夫などを生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、器楽などで表している。
②思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽を形づくっている要素（音色、リズム、速度、旋律）や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したことの関わりについて考え、どのように表すかについて表現意図をもったりしている。
③主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・音や音楽、音楽文化と豊かに関わり主体的・協働的に表現の学習活動に取り組みようとしている。

4. 題材の目標

- ・曲想を楽曲の文化的背景とかかわらせて感じ取り、イメージをもって演奏する。
- ・リコーダーの奏法による表現の違いを生かし、表現を工夫して演奏する。

5. 授業展開【 ~~本時~~ ・ 題材 】

解決したい課題や問い
どのように演奏すれば、「メヌエット」らしい演奏になるだろう

考えるための材料			
考えるための材料A	考えるための材料B	考えるための材料C	考えるための材料D
「メヌエット」の楽譜	アーティキュレーションのプリント	宮廷、古典舞曲の映像	他グループの演奏
想定される生徒のあらわれ			
楽譜に書かれていることを読み取ろうとする	適したアーティキュレーションを選択する	メヌエットらしい演奏の特徴とは何かを考える	どのように演奏すればメヌエットらしい演奏になるかを考える

対話と思考（対話を通じた協働的な問題解決のプロセス）

【知識】リコーダーの演奏法の知識を得る。音楽の構造や文化的・歴史的背景を知る。

【技能】考えるための材料Aと考えるための材料Bを使って、リコーダーの基礎的な奏法を習得する。

【対話と思考①】考えるための材料Cの鑑賞を通して、「メヌエット」の曲想を楽曲の文化的背景とかわらせて感じ取る。メヌエットらしい演奏の特徴とは何かを考える。▶「楽器の音色が軽やかだった。」
「思っていたより明るい感じだった。」「どうしたら軽やかに演奏できるのかな。」「どのアーティキュレーションを使えば軽やかな演奏になるのだろう。」

【対話と思考②】リコーダーでメヌエットの特徴を生かした演奏をするために、冒頭の2小節の適切な奏法を演奏しながら、適した奏法についてグループで考える。▶「一拍目は大切だから、アクセントを付けて演奏してみたらどうだろう。」「同じ音が続く所は丁寧に演奏した方がいいからテヌートを付けた方がよくない？」

【対話と思考③】グループごとに2小節ずつリレー方式で演奏することで、互いの演奏の違いに気付く。
▶「あれ？私が考えていたのと違うな」「このグループの演奏、メヌエットっぽくていいな」「このグループの演奏、私たちの考えたのに似ているな」「あの演奏は、音楽の流れが重く感じるな」

【まとめ】自分なりの演奏の工夫を考え、ワークシートに記入した上で演奏してみる。

学習の成果（予想される生徒のあらわれ）

- ・「メヌエットは舞曲だから、優雅に聞こえる明るい音色で演奏すれば、『メヌエット』らしい演奏になると思う。」
- ・「舞曲には軽さが大切だから、同じ音が続くところは、重くならないように切り気味に演奏すると「メヌエット」らしい演奏になる。」
- ・「裾の長いドレスで踊れるように、ゆったりとした速度で演奏すると『メヌエット』っぽい演奏になる。」
- ・「リコーダーの音色は澄んで美しいから、旋律がなめらかにつながるように、フレーズは一息で演奏すると「メヌエット」らしく演奏できる。」